



女もすなる都市計画～その二 開催報告！ 第四回「都市の農地と農業を考える」

5月15日開催 in 静岡 6月23日開催 in 浜松

時代と共に都市農地への政策は変遷してきたことを確認しながら、人口減少社会の到来により都市農地の多面的機能の発揮が求められてきていることについて議論しました。

都市農業の議論の経緯

◆1970～1980前半：都市への人口集中、スプロールの進展

市街化区域では、「農地」は生産性が低い土地利用であると位置づけ、より望ましい土地利用への転換（宅地化）をすべきものとされた。

◆1980～1990前半：バブル期 土地が投機の対象、高騰へ

市街化区域内に農地が残存するせいで土地価格が必要以上に高騰すると理由で都市から農地は速やかに排除しなければならないという、都市農業不要論。

◆1990～現在 低成長時代に加え人口減少社会が到来

都市農業への評価が高まり、「農」が都市に不可欠な要素であることへと認識が変わってきた。



農地の色々

農地転用の可否に際し重要となる青字農地と白地農地、甲種農地・第1種農地、第2種農地、第3種農地の別等、実は農地の分類について参加者のほとんどが「？」の表情である。初めて知ったようだ。そして、そもそも都市農地って何？という話に。「都市農業振興基本法」を読み込んでいくと「市街化区域内の農地と市街化調整区域内の一」市民が都市農地の活用に関わっていく上では、農地に関する制度についてもっと知る必要があるだろう。

農地に係る税制

市街化区域内農地の宅地化を誘導する方策となっている課税制度等（宅地並み課税、生産緑地への農地課税の条件等）を議論する中で、多くの都市農地が、相続税対策としても転用され賃貸住宅が建設されていることが話題になった。

人口、世帯数が減っている中で、賃貸住宅が供給過剰となり、家賃の値下げによる安い賃貸物件や空き家が増加し、地域環境にも悪影響を及ぼし始めている課題が、浜松の参加者から指摘された。

都市農地の活用事例

ドイツのクラインガルテンやイギリスのアロットメント（分区分園）は、産業革命を契機に開設され、食糧の自給への期待もされていたことや、アメリカでは、宅地を農地に替えて地域コミュニティの再生等を図る活動（右欄「ちょっと注目！」参照）が活発になっていることを確認しながら、わがまちの都市農地の活用について議論を深めた。

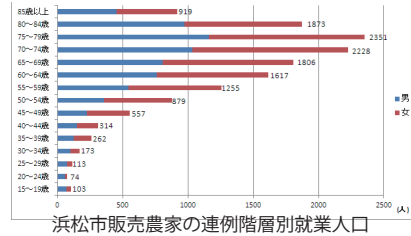
農地の区分		評価	課税
一般農地		農地評価	農地課税
市街化区域農地	一般の市街化区域農地	宅地並み評価	農地に準じた課税
	特定市街化区域農地	宅地並み評価	宅地並み課税

農地の課税上の分類

部」と定義されている。結構アバウトである。地域の実情にあわせて展開を図る上ではこれくらいの方が融通が利いて良いのかもしれない。例えば、人口の90%以上が市街化区域に住む静岡市では、生産緑地等市街化区域内の農地が、市街化調整区域に人口の1/3に住む浜松市では、農地と住宅が混在する市街化調整区域内農地が主な対象となるようなイメージが湧く。

誰が都市農地を活かしたまちづくりを進めるのか

農業人口が減少し、高齢化が進んでいる状況で、大規模化が難しい都市農地を、誰が地域の資源として活用していくことになるのだろうか。農家だけに依存するわけにはいかないことは容易に想像できる。



そして、都市農地を地域の資源として活用していく方策を議論する中で、いくつかの疑問が出された

- ・農家以外が農地を取得するのが難しいのは何故？
- ・市民農園は誰が開設し、誰が利用しているの。“市民”農園というのだから市の所有なの？
- ・農地を借りていたんだけど、長く貸していると、借手に権利が生ずるからもう貸せないと言われた経験があるけど、何故だったの？
- ・農家が高齢化して後継者がいないことが課題だと耳にするけれど、もっと、やりたい人ができるようにすればいいんじゃない？それは何故できないの？

実は農地の制度について知らないことが多いことに気付く。 ✓

ちょっと注目！ 宅地を都市農地に転換

米国カリフォルニアを中心に広がりを見せている、遊休地を畑にしようとする活動がある。これは、単に畑にして野菜づくりを楽しむというのではなく、都市農地を使ってジャンクな食事をとらざるを得ない都市における食糧供給問題との連携や、学校での食育の展開などを市民が主体となり具体化している。

この活動のドキュメンタリー映画

「都市を耕すーエティフル・シティ」は、

国際有機農業映画祭2015で公開された後、国内各地で上映会が開催されて話題になっている。

また、デトロイト市は、「都市農業活動を通じた荒廃地の改善及び地域活性化」のプロジェクトパッケージにより注目を集めている。

「汚染した水と土壌の再生」「農業の実施によるコミュニティ再生」を目指し、中心市街地の荒廃した土地において都市農業を実施することにより、深刻だった治安問題が改善するなど、総合的な活性化に寄与しているという。



写真：http://www.lexpress.fr/actualite/monde/amerique-nord/comment-detroit-se-tourne-vers-l-agriculture_913276.html より

非営利団体であるデトロイトブラックコミュニティの食料安全保障ネットワーク（DBCFSN）によって管理されている都市農地。少年たちも農作業に参画することで、教育や青少年の健全育成の場ともなっている。参考資料：



静岡の参加者からは、オーナーの芋畑を利用できる「芋つき賃貸物件」が紹介された

ご報告 第2回通常総会

第2回通常総会が2016年5月19日16:00~開催されました。以下の議事が滞りなく承認されました。会員の皆様ありがとうございました。

- 第1号議案 2015年度事業、活動計算書、監査報告の件
- 第2号議案 2016年度事業計画、活動予算書承認の件
- 第3号議案 役員退任の件
- 第4号議案 定款変更の件（主たる事務所の住所変更）

第2号議案 2016年度事業計画の内容

①公共交通等を活用したまちづくりに関する事業

◆広報・啓発活動

公共交通ポータルサイトの開設・運営（Facebookページによる）



当法人HPにある
バナーをクリック
ください。

②観光振興によるまちづくり・むらづくりに関する事業

◆アドバイス活動

お茶を活かしたまちづくり活動への支援
（民間事業者との連携事業）

③農山漁村におけるむらづくりに関する事業

◆アドバイス活動 棚田保全活動への支援 等

◆広報・啓発 原田橋に係る情報提供活動

④その他この法人の目的を達成するために必要な事業

◆調査・研究事業 まちの造り研究会

◆広報・啓発活動 勉強会の開催 テーマ：未定

「空地・空き活用」「都市農地活用」等

◆広報・啓発活動 ニュースレターの発行

募 集 中

◆ まちづくり勉強会 第二段 ◆

昨年で全12回を終えた、女もすなる都市計画勉強会。模様替えて第二段を始めております。毎回テーマを設定し、隔月で静岡と浜松にて実施します。お茶を飲みお菓子をつまみながら、硬派な話題を楽しい雰囲気の中で議論します。興味のあるテーマの回だけでも参加いただけます。（参加費：1000円 会員の方：500円）

◆テーマ 1・2月 景観

3・4月 緑の保全と活用（緑の基本計画等）

5・6月 都市における農業を考える

7・8月 公共交通を考える

9月以後のテーマは未定ですが、以下を予定しております。

・地縁と志縁のコミュニティ

・空き地・空き家を考える

・都市の未来像（スマートシティ、エコシティ等）

◆現在、以下の参加者を募集しております。

7月20日（水） 18:30~20:30 （於：静岡）

8月下旬 18:30~20:30 （於：浜松）

◆詳細はHP（<http://npofuji.jp/web1/events>）をご確認いただき、事務局までご連絡下さい。



静岡会場風景

まちづくりの“教養”として
都市計画を学びたい
グループの方、出張講義
いたします。ご相談下さい。

ご報告 調査・研究発表会

昨年度、浜松まちづくり公社のまちづくり活動助成を受け実施した調査研究事業の発表会がありました。この発表会では下川理事も研究発表をされました。

発表会の内容

◆名称：まちづくりフォーラム2016

みんなていい浜松（まち）つくりましょう！

—平成27年度まちづくり調査研究成果発表—

◆プログラム:

①人口減少に伴う地方都市の活性化に向けたまちづくり

—遠州鉄道沿線地域を対象として—

下川 澄雄 氏（日本大学理工学部教授）

②公共交通軸周辺の活性化に寄与する情報提供について

～「く・る・る」西ルートをモデルとして

NPO法人 まちづくりサポーターFUJI

③浜松まちづくり公社の取り組み

「公共空間利活用（アクト通り・浜松駅北口地下広場）、
空き家の管理・利活用、まちづくり助成事業の紹介」

◆日時：平成28年7月8日（金）14:00~16:30

◆場所：浜松こども館分室「ここ・い〜ら」ギャラリー

ザザシティ浜松中央館5階



会場風景

会員募集

当NPOの趣旨にご賛同いただき、会員になってくださる方を募集しております。まちづくり・むらづくりに関心のある、支援・参加したい方々をお待ちしております。会員の方には、講演会や勉強会への参加費の割引、HPでの活動紹介等をさせていただきます。

○会費：入会金 正会員 3000円 賛助会員 1000円

年会費 正会員 6000円/一口 賛助会員 1000円/一口

○振込先：静岡銀行清水中央支店（店番144）普通 0950668

口座名義 トクヒ マチヅクリサポーターフジ

○お申込み：

上記振込先にお振込み後、下記連絡先まで、FAXまたはE-mail

にて①お名前 ②ご連絡先の住所・電話番号・FAX番号・E-mail

③ご所属 ④お振込み口数をご連絡下さい。

ご連絡先は、お勤め先でもご自宅でも結構です



連絡先

TEL:054-340-2005 FAX:054-366-5438

E-mail: info@npofuji.jp

NPO法人 まちづくりサポーターFUJI 事務局

閑話:ちょっと気になる話題

平成26年度の食料自給率は、カロリーベースは前年度と同率で39%、生産額ベースは前年度から1ポイント減少し64%。（農林水産省）

ちなみに静岡県の場合、カロリーベースで17%、生産額ベースは52%（平成25年度（概算値）都道府県別食料自給率データ）

日本の耕作放棄地40万haのうち、8万haが都市的地域に存在するが、この半分が体験農園に転換されれば8千億円の生産額を生み出し、国の食料自給率は5.9%高まるといった分析がある。

（週刊ダイヤモンド農業特集より）